

縄南中通信



平成29年 7月 1日 発行
2017年度 第4号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

縄手南(小中一貫)施設分離型義務教育学校(平成31年度開校予定)教育理念

「縄南道」による二十歳の成人式に

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「Over The Top」「縄南道」部生の力を結集させた体育祭！

6月17日(土)、本校第31回体育祭を開催致しました。最近の3年間は雨の影響を受け、順延が重なっていましたので、何とか今年は天気恵まれるようにと思っていました。21日(水)に大阪府中学生チャレンジテストが実施されることもあり、順延となった場合の日程も考慮に入れ、今年度は土曜日開催としました。縄手南中学校の体育祭は中学校の体育祭であるだけでなく、平成31年度開校予定の義務教育学校における「縄南道」を見据えての取り組みです。今年のテーマは「Over The Top」(限界を超えて)で、こだわった意識は「全力」でした。9年生が修学旅行から戻って来た後より



9年生、左貝海さんと西岡望瑛さんによる堂々とした選手宣誓

より体育祭練習が始まりました。一般的によくある光景ですが、体育祭の練習が始まった最初の頃は、全体行進を何回もやり直したり、ラジオ体操を何回もやり直したり、入退場を何回もやり直したりということがあります。縄南道では体育祭練習が始まる直前の全校集会で次の点について意識を高く持って練習することを伝えました。それは、「言われてやるのは二流、言われてもできないのは論外、言われなくてもできるのが一流、人を感動させることができるのが超一流である」ということです。つまり、これから始まる練習で内容を良くするために、さらに高いレベルを目指すための繰り返しや反復練習は当然ありますが、意識が低くてできなかったやり直しは一度の再挑戦はあっても二度目のやり直しは論外であるので、意識の低い練習を何回も繰り返すことはありえないと伝えました。さらに、練習が始まった時から体育祭まで、毎日の授業や部活、掃除等を考えると約500回程度のあいさつをする機会があるので、この一回一回を丁寧に意識することで、体育祭当日の「礼」の質が変わるということも伝えました。これらが学校全体で構成する「縄南道部」が体育祭という大会の3週間前に目標とした共通イメージです。一つ一つの丁寧な積み重ねが大きな結果を創り出すことを再度確認しました。

当日は教室から椅子を持ち観覧席に移動した生徒が、学年順に入場隊形に移動し「静」の空気をつくり合図を待ちました。開会宣言の後、生徒会長の福上歌音(9年)さんと生徒会執行部を先頭に、7年生より学年・男女別に行進しました。正面に並んだ後は体育委員長の左貝海(9年)君と体育委員の号令のもと、全校生徒が声を出し入場しました。まさしく「動」の状態です。この日は野田東大阪市長もご来賓としてお越し下さり、開会式では「縄手南中学校が実践しているあいさつや、規

律ある行動は必ず大人になって役に立ちます。今、その意味がよくわからなくてやっている人も必ずその意味がわかる 때가来ます。ぜひ、一生懸命取り組んで下さい。」といった「縄南道」が目ざすことと同じ内容のメッセージを頂きました。その後、選手宣誓、プログラム最初の「縄南道」が得意とする準備運動（ラジオ体操）の演技となりました。行進、選手宣誓、ラジオ体操に対して観覧に来られた皆様より大きな拍手を頂きました。その後の午前・午後のプログラムも順調に進み、フィナーレを飾る9年生のチアダンス・集団行動が行われました。高い空気感とモチベーションに加え、9年生男女のやる気のこもった充実感を感じる演技でした。この9年生の演技に引き続き、最後のプログラムである整理運動（ラジオ体操）にも大きな拍手を頂きました。当日の昼食時にも9年生は学年の先生の指導のもと、心の準備を行っていました。見えない部分ではありますが、7年生と8年生もぜひ参考にしてほしいと感じています。成功の裏にある見えないところで、どのような取り組みがされているかを想像することは、自身の資質を高めることに繋がります。今回も多くの場面で伝えられていましたが、体育祭を成功させるためには、主役である生徒全員の意気込み、モチベーションは必要です。「全力」ということにこだわった取り組みに対して、自分はどう応えるのかという姿勢は不可欠ですが、それだけでなく体育委員や実行委員、陸上部、文化委員、美術部といった裏方で活躍してくれていた仲間、クラスで地道な作業をしてくれていた仲間、黙って後片付けを黙々としてくれていた仲間がいます。また、PTAの方々や校区校外指導協議会の皆様を含めた諸団体の皆様は、何度も集まり打ち合わせをされ、日本一の「縄南道体育祭」を応援するために多くの時間と労力をかけてくださっています。体育祭に限らず縄手南では、当たり前のように皆様が応援して下さっていますが、これらの方々の思いを知り、応えることができるのは、感謝の気持ちを大切にされた生徒全員の「全力」しかありません。再度、振り返って心に刻んで下さい。

また、予行の日にはスタートの状態、空気感に対してピンチの状態と伝えました。それは、予行での入場行進前に席から移動する様子、その少し前の教室から運動場に出てくる様子が、大切な勝負に挑む開始寸前の空気感になっていなかったからです。大きなことを成功させるための条件の一つは準備です。寸前の準備、5分前の準備、30分前の準備、1日前の準備、1週間前の準備、1か月前の準備等です。この準備に意識を高く置いて、丁寧に進めていくと本番のスタートが高いレベルから入ることができます。これはその時だけやろうと思ってもできるものではありません。日頃の訓練、鍛練が必要です。意識の積み重ねが必要です。今年の体育祭では、生徒席の区切りのロープや、コースと生徒席を分断するロープはありませんでした。君たちの「当たり前」の意識が高くなり、実行できている大きな結果です。そんなものは必要なくなったのです。これからも日頃の「当たり前」のレベル、日頃の「意識のあり方」を磨くことで、さらにステップアップした「縄南道」を創造し、君たちの未来への可能性を大きく高めていきましょう。

クラブ等の主な記録

英語暗唱大会 優秀賞 前田彩乃(9年)「Obama's Speech at Pearl Harbor」(大阪府大会へ)

陸上 中河内地区春季陸上競技大会 (下記すべて大阪府大会へ)

共通男子 走幅跳 3位 永井海叶(9年)5m81 200m 4位 花見銀河(9年)24"21

800m 5位 喜代田悠輝(9年)2'16"66

4×100m 7位(山崎駿斗 花見銀河 宮崎陽平 細川新琉 全9年)47"33

女子 1.2年 4×100m 4位(松谷涼花 8年 西山楽夏 7年 古川林樹 7年 岡部奈央 8年)57"11

剣道 昇級 一級 東丈心(9年) 植田優汰(8年) 植田颯真(8年)

三級 西村歩武 内藤隼也 守谷真聖 秋山知輝 中田陽介 内田佑磨

野村晃汰 松葉匡亮(全8年)

※平成31年度義務教育学校開校に向け中学1年・2年・3年を7年・8年・9年と表記しています。